

高校入試データブック

一都三県

- ▶ 2025年度入試の状況と今後の展望
- ▶ 高校入試 学校選びアドバイス
- ▶ 大学附属校の内部進学状況
- ▶ 首都圏の高校入試 主な変更点



Vol.1

CONTENTS

EIKOH DATA BOOK

2026年度入試用 高校入試データブック

●2025年度入試の状況と今後の展望

・ 難関私国立・都県立トップ校の入試状況	2
・ 東京都 高校の入試状況と合格の目安	8
・ 神奈川県 高校の入試状況と合格の目安	14
・ 千葉県 高校の入試状況と合格の目安	20
・ 埼玉県 高校の入試状況と合格の目安	26

●高校入試 学校選びアドバイス

●大学附属校の内部進学状況(2024年3月卒業生)

●首都圏の高校入試 主な変更点

2026年度入試用 高校入試データブック Web版

新たに発表された情報を順次更新します。

入試分析 入試変更点 最新の高校入試の分析や振り返り、県別の入試同行を掲載しています。 冊子コンテンツ	東京 神奈川 千葉 埼玉 都県立入試結果	東京 神奈川 千葉 埼玉 私国立入試結果
東京 神奈川 千葉 埼玉 栃木・茨城 入試の仕組み	東京 神奈川 千葉 埼玉 栃木・茨城 都県立リンク集	東京 神奈川 千葉 埼玉 栃木・茨城 入試要項
大学合格実績 内部進学実績 大学合格実績	東京 神奈川 千葉 埼玉 合格の目安	School-pot 学校説明会情報など学校からのメッセージが、最新の状態で手に入ります。 学校情報検索サイト School-pot

□ Web コンテンツ

- ・ 2025入試結果
- ・ 入試の仕組み
- ・ 各都県ホームページリンク集
- ・ 私国立入試要項
- ・ 大学合格実績
- ・ 内部進学状況
- ・ 学校情報検索サイト

こちらから
アクセスできます



<https://eikohlms3.heteml.net/kyoumu/db/top.pdf>

2025年度 首都圏高校入試を振り返る

難関私国立・公立・
トップ校の入試状況

2025年春の入試とその結果をふまえ、高校受験に臨むために欠かせない情報——難関私国立高校と各都県の公立高校の入試動向——をお伝えします。最新の状況をしっかり把握して、志望校選びや併願のプランニングを行い、第一志望合格に向けた学習に取り組んでください。

※ 2025年春の入試を「2025 年度」と表記しています。



1 都 3 県公立高校の動向

最大のトピックは東京都立高校の出願者数が大幅に減少したことです。神奈川・千葉・埼玉については志願率にそれほど変化がありません。東京だけが減少しているという状況です。

最大の理由として考えられるのは、2024年度から始まった私立高校実質無償化の制度が、今年度の入試において十分に周知・認知されたことにより、私立高校を志望する生徒が増加したことです。

私立高校実質無償化は、授業料の一定金額を上限として国と都から支援金が得られる制度です。これにより、従来であれば経済的な理由で私立高校を選択できなかった生徒が、都立・私立を近い条件で比較できるようになりました。その結果、施設・設備の充実や、大学の附属校であるなどの魅力もあり、私立高校への進学を希望する生徒が増加したと考えられます。

◆ 1- 1 難関私国立高校志願者数推移

年度	国立・開成・渋谷幕張	早慶附属	MARCH附属
2021	3,141	7,880	8,735
2022	3,621	8,723	9,460
2023	3,594	8,547	9,560
2024	3,585	8,587	9,606
2025	3,558	8,687	9,529

国立・開成・渋谷幕張の動向

開成の受験者は前年に比べて1割弱減少しました。2023年度、2024年度は550名前後で推移していましたが、本年度は500名を割り込んでいます。ただし、合格者数も若干絞り込まれています。

筑波大駒場は受験者の減少傾向が進んでいましたが、今年度は増加に転じ、倍率が大幅に上昇しています。筑波大附属は2年連続で男女ともに受験者が減少し、倍率が若干緩和しています。倍率は下がっているものの、合格者の学力レベルは下がっておらず、より実力のある受験生が集まる傾向が強まっています。そのため、「チャレンジ」的な受験が減少したことが考えられます。

お茶の水女子は、受験者が減少し、かつ合格者を増やしているため、倍率が大幅に抑えられている傾向にあります。次年度はこれを好機とみた受験生が集まる可能性がありますので注意が必要です。

対照的に、学芸大附属は受験者が増加しました。また、今年度は数学の入試問題にミスがあり、合格発表後に追加の合格者を出す事態になりました。この影響もあって前年に比べ合格者が100名以上

増え、倍率が大きく下がりました。同校は例年、正規格格者を絞り込み、あとから多数の繰上合格を出す傾向がありましたが、今年は繰上合格者の数が大幅に抑えられました。結果的に、正規格格（追加合格を含む）と繰上合格を合わせた総合格者数は例年並みとなっています。ただし、学校ホームページ等で発表している合格者数には繰上合格者の数が含まれていないため、合格者数が大幅に増加したように見える形となっています。

渋谷幕張は、前年と比べて男子に緩和傾向が見られました。受験者の減少と合格者の増加により、倍率が前年の3.22倍から2.38倍まで低下しました。ただし、これは前年が異常値であるともいえ、一昨年(2.46倍)とほぼ同じ水準に戻った形です。今年の入試傾向以上に注目すべきことは、来年度予定されている募集定員の減少(55名→35名)です。単純計算で20名の減少ですが、実際の合格者数はそれ以上に減り、極めて厳しい入試になると予想されます。これは将来的に高校募集を停止するための布石とも考えられ、中学入試の厳しさを考慮すると、重要な転換点となる可能性があります。

◆ 1- 2 首都圏最難関校の一般入試結果

国立・開成・渋谷幕張		男女																		
	2025 年度			2024 年度			2023 年度													
	学校名	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率										
	学芸大附属	1,165	378	3.08	1,023	274	3.73	922	266	3.47										
早慶附属		男子									女子									
		2025 年度			2024 年度			2023 年度			2025 年度			2024 年度			2023 年度			
	学校名	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	
		筑波大附属	274	98	2.80	323	98	3.30	340	90	3.78	172	69	2.49	176	67	2.63	191	65	2.94
		筑波大駒場	149	45	3.31	129	46	2.80	129	44	2.93									
		お茶の水女子										254	119	2.13	258	111	2.32	346	106	3.26
		開成	497	172	2.89	545	180	3.03	555	189	2.94									
		渋谷幕張	433	182	2.38	490	152	3.22	470	191	2.46	159	42	3.79	181	51	3.55	199	44	4.52
		慶應義塾	1,115	448	2.49	1,111	424	2.62	1,206	457	2.64									
		慶應志木	1,050	337	3.12	1,080	349	3.09	1,105	348	3.18									
	慶應女子										395	153	2.58	448	146	3.07	450	131	3.44	
	早大学院	1,428	509	2.81	1,438	522	2.75	1,410	516	2.73										
	早大本庄	1,737	458	3.79	1,723	475	3.63	1,744	493	3.54	771	189	4.08	760	220	3.45	741	228	3.25	
	早稲田実業	590	109	5.41	441	127	3.47	449	119	3.77	380	87	4.37	272	59	4.61	240	55	4.36	

早慶附属系高校の動向

早慶全体の受験者は増加傾向にあり、合格者はわずかに減少しています。結果的に全体の倍率は上昇しています。

学校別に見ると、早大学院、慶應志木、慶應義塾の3校については、ほぼ例年並みの状況です。40～50名程度の出願者の増減はありますが、早大学院や慶應義塾の規模では大きな変動とは言えません。いずれも例年1,000～1,400名規模の受験者がいることから、例年と変わらない状況であると認識できます。

一方、募集定員の変更幅以上に実際の合格者数が大きく変動することがあります。その意味でも今年の最大のトピックは早稲田実業です。同校は今年、男子の募集定員を50名から45名に減らし、女子の募集定員を30名から45名に増やしました。入試結果を見ると、男子は5名の定員減に対して18名もの合格者減となり、女子は15名の定員増に対して28名の合格者増となっています。男子の倍率は大幅に上昇し、5倍を超える厳しい入試となりました。女子は出願者が100名以上増加したものの、合格者数も増えているため、むしろ倍率は若干低下しています。

注目すべきは、同じ2月10日に入試を実施する慶應女子との関係です。早稲田実業が女子の募集定員を拡大したことにより、合格しやすくなることを見込んだ受験生が慶應女子から早稲田実業に流れる動きが見られました。実際、慶應女子の受験者は約50名減少し、倍率が3倍を下回る結果となりました。このように、募集定員の変更は、受験生の志望校選択だけでなく、同日に試験を行う学校にも大きな影響を与えます。

早大本庄については、受験者の数に大きな変化はないものの、合格者がここ2年間で70～80名減少しており、男女ともに倍率は上昇傾向となっています。この背景には入学手続率の上昇、つまり同校を第一志望とする生徒が増加していると考えられます。従来繰上合格が多い学校ですが、今年は例年ほど多くはありませんでした。

同校は埼玉県本庄市に位置し、東京都や千葉県などからは通学時間がかかるにもかかわらず、第一志望とする受験生が増加しています。以前は立地の遠さから、合格しても入学を見送る生徒が多く見られましたが、現在では同校の教育内容や進学実績の魅力から、埼玉県外の地域からも第一志望に選ぶ受験生が

増えています。従来のデメリットを超えて、同校を評価する傾向が強まっているといえます。

きたる2026年度入試では、早大本庄も男子の定員減と女子の定員増を予定しています。こうした定員変更の背景には、男子に比べて女子の募集人員が少ない現状を是正する意図があると考えられます。

これは早稲田実業が今年実施した定員変更と同様の流れであり、早稲田系列校全体として男女比の適正化を図る動きの一環と見ることができます。早稲田実業の例からみても、実際の合格者数は募集定員の変更幅より大きく変動することが予想されます。こうしたことは、受験生の志望動向や倍率に大きな影響を与えることが考えられます。

MARCH 附属高校の動向

全体傾向としては、受験者数・合格者数ともにほとんど変化がありません。この3年間は安定的に推移しており、合格者数がわずかに減少している学校もあるものの、ほぼ横ばいの状態です。この10年間、受験者数は増加し続けてきましたが、ようやく安定期に入ったと見ることができます。

2025年度入試の状況と今後の展望

◆ 1-3 2025年度難関高校入試日程（男子）

1月中	2月										
	1日	6日	9日	10日	11日	12日	13日	14日・17日・18日	18日・19日	21日	26日・27日
渋谷幕張				開成			筑波大駒場				
市川				桐朋	城北	巣鴨	筑波大附属				
栄東				国際基督教大			学芸大附属				
昭和秀英							慶應義塾2次				
		慶應志木1次	早大本庄	慶應義塾1次	慶應志木2次						
				早稲田実業	早大学院						
	立教新座			中大附属	中央大学	明大明治					
				中大杉並	明大八王子	明大中野					
				法政大学	法政第二	法政国際					
						青山学院					
						中大横浜					
								神奈川県公立 (14日 学力検査)	千葉県公立 (18日 国語・数学・英語)	東京都立 (学力検査)	埼玉県公立 (26日 学力検査)
								神奈川県公立 (17日・18日 特色検査 および面接)	千葉県公立 (19日 理科・社会・ 学校設定検査)		埼玉県公立 (27日 実技検査 および面接)

◆ 1-4 2025年度難関高校入試日程（女子）

1月中	2月										
	1日	6日	9日	10日	11日	12日	13日	14日・17日・18日	18日・19日	21日	26日・27日
渋谷幕張				国際基督教大			お茶の水女子				
市川							筑波大附属				
栄東							学芸大附属				
昭和秀英											
			早大本庄	慶應女子							
				早稲田実業							
				中大附属	中央大学	青山学院					
				中大杉並	明大八王子	明大明治					
				法政大学	法政第二	法政国際					
						中大横浜					
								神奈川県公立 (14日 学力検査)	千葉県公立 (18日 国語・数学・英語)	東京都立 (学力検査)	埼玉県公立 (26日 学力検査)
								神奈川県公立 (17日・18日 特色検査 および面接)	千葉県公立 (19日 理科・社会・ 学校設定検査)		埼玉県公立 (27日 実技検査 および面接)

特筆すべきは女子の動向です。2月10日の早稲田実業・慶應女子・中大杉並、2月11日の明大八王子・中央大学・法政第二、2月12日の青山学院・明大明治といった大学附属校を連続して受験する生徒が増加しています。これらの選択肢が広く認知され、3日間連続の受験に臨む受験生が多く見られるようになってきました。

明大明治は今年、男子の受験者数が大きく回復する一方、女子の受験者数は減少しました。男女ともに合格者を大幅に絞り込んだため、倍率は上昇しています。男子は前年の1.81倍から2.43倍に、女子は合格者数を101名から78名まで減らした結果、3倍を超える倍率となりました。

明大八王子は非常に大きな動きがありました。男女ともに受験者数が大幅増、合格者数が大幅減となりました。男子の受験者が約100名増加し、かつ合格者が半分近くに減った結果、倍率が前年の3.64倍から9.03倍まで上昇しました。女子も同様に受験者が約100名増加し、

合格者を減らした結果、前年の4.10倍から6.53倍まで上昇しています。

こうした出願者数の大幅増の背景には、同校を第一志望とする生徒の増加に加えて、同校の推薦入試と一般入試を連動させた特徴的な入試制度があります。具体的には、推薦入試で不合格となり一般入試で再度挑戦する受験生に対して、優遇措置として3教科の総合得点に10%の加算を行う仕組みを設けていることです。たとえば、2月11日の一般入試で180点を取った受験生がいたとして、この受験生が推薦入試を受験していた場合は $180 \times 1.1 = 198$ 点として判定されます。これにより、今年は推薦入試の受験者が増加し、その多くが一般入試にも挑戦することとなりました。また、この加算措置があることで、成績の面で「やや強気」といえる出願をする受験生が増えたことも出願者増加の要因と考えられます。

一方、一般入試において大幅に合格者が減少した背景として、B推薦入試（埼玉県在住の受験生は、同校を第一志望とせ

ず他校を併願できる）の入学手続者数が予想以上に多かった可能性が考えられます。B推薦で合格し、入学手続をした受験生が例年より増加したため、一般入試の合格者数を大幅に絞り込む必要が生じたということです。このように、推薦入試の結果が一般入試の合格者数に大きく影響を与えることとなりました。

青山学院は、男子は前年の揺り戻しで受験者が減少に転じました。女子もまた、入試の厳しさが認知されたからか、この2年間は受験者が減少しています。これらの背景として、同じ2月12日に入試が実施される他校との関係が考えられます。特に明大明治や、外国語に強いという共通の特長を持つ法政国際にも受験生が流れた可能性があります。

法政大学系列では、法政大学が受験者数・合格者数ともにほぼ変わらず安定しています。法政第二は2024年に受験者が大きく増加しましたが、今年は女子の受験者がさらに増加しています。2月11日以降の日程で女子の附属校受験が増加している影響が考えられます。

◆ 1-5 MARCH附属校の入試結果

学校名	男子									女子								
	2025年度			2024年度			2023年度			2025年度			2024年度			2023年度		
	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率
明大明治	357	147	2.43	322	178	1.81	373	166	2.25	238	78	3.05	255	101	2.52	356	131	2.72
明大中野	801	280	2.86	841	261	3.22	892	285	3.13									
明大八王子	334	37	9.03	233	64	3.64	230	64	3.59	281	43	6.53	209	51	4.10	187	50	3.74
青山学院	321	98	3.28	374	97	3.86	328	76	4.32	357	100	3.57	428	99	4.32	484	100	4.84
立教新座	1,562	689	2.27	1,571	679	2.31	1,517	711	2.13									
中大杉並	506	168	3.01	515	151	3.41	498	149	3.34	454	148	3.07	441	161	2.74	434	185	2.35
中大附属	325	126	2.58	397	118	3.36	465	124	3.75	273	90	3.03	314	86	3.65	407	92	4.42
中大横浜	202	58	3.48	227	64	3.55	216	56	3.86	134	28	4.79	116	30	3.87	163	36	4.53
中央大学	321	103	3.12	292	87	3.36	276	89	3.10	411	124	3.31	386	123	3.14	355	116	3.06
法政第二	547	130	4.21	565	135	4.19	473	141	3.35	374	139	2.69	352	130	2.71	293	114	2.57

学校名	男女									
	2025 年度			2024 年度			2023 年度			
	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	
法政大学	267	111	2.41	269	107	2.51	225	89	2.53	
法政国際	474	139	3.41	432	147	2.94	397	139	2.86	

◆ 1-6 難関私立進学校の入試結果

学校名			2025年度			2024年度			2023年度		
			受験	合格	倍率	受験	合格	倍率	受験	合格	倍率
桐朋	男子	3科	252	101	2.50	244	151	1.62	214	144	1.49
城北	男子	3科	292	176	1.66	229	176	1.30	329	176	1.87
巣鴨	男子	5科	215	144	1.49	237	144	1.65	326	146	2.23
		3科	23	5	4.60	24	9	2.67	42	12	3.50
市川	男子	5科	639	442	1.45	679	418	1.62	702	406	1.73
	女子		369	233	1.58	404	225	1.80	404	217	1.86
昭和秀英	男子	5科	664	397	1.67	725	430	1.69	710	396	1.79
	女子		490	229	2.14	495	300	1.65	537	274	1.95
国際基督教大学	男女	3科	513	233	2.20	264	126	2.10	285	132	2.16

立教新座は、この3年間、受験者数約1,550名で推移し、合格者数もほとんど変化がなく、倍率は2.1～2.3倍の範囲で安定しています。附属校を志望する受験生が増加していることに加え、早慶受験者が立教新座を積極的に併願する傾向が強まっています。数年前は出願者が1,200～1,300名程度でしたので、人気が上昇していることがわかります。ただし、合格発表後の入学手続率があまり高くないため、今年は約150名の繰上合格がありました。これは前年と比べてもかなり多い人数です。

この手続率の低さの背景には、2月6日の慶應志木から始まる早慶入試に向けた前哨戦として立教新座を受験する層が一定数いることが考えられます。2月1日にはほかの難関校入試がないことから、MARCH系列を第一志望とする受験生だけでなく、早慶受験生も積極的に受験する傾向が見られ、これが手続率に影響を与えている要因と考えられます。

中央大学系列については、中大杉並が比較的安定していますが、女子の合格者数を2年続けて減らしているため、受験者数があまり変わらない中で実質倍率が上昇しています。

中央大学附属は、これまでずっと隔年現象を続けてきた学校です。そのため今

年は受験者が増加すると見込まれていましたが、男女ともに減少しました。この背景として、同じ2月10日に試験を実施する学校との関係があります。同じ中大系列の中大杉並はそれほど受験者が増加していないことから、同じ地区に位置する早稲田実業に受験生が流れた可能性が高いと考えられます。実際、早稲田実業は男女ともに受験者が激増しています。

進学校の動向

千葉の進学校では、市川の受験者数が男女ともに大幅に減少しました。これまでの入試レベルの高さから敬遠された可能性があります。昭和秀英は横ばいになることが予想されていましたが、男子は受験者・合格者ともに減少したため倍率は変わらず、女子は受験者数はほぼ横ばいでしたが合格者数を絞ったため倍率が上昇しました。

東京の進学校では、桐朋は受験者数はほとんど変わりませんでした。合格者を大幅に絞り込みました。同校は都立志望者の第二志望として、また早慶の併願校として受験する生徒も多く、根強い人気があります。今年は合格者を50名減らしました。この大幅な絞り込みにもかかわらず繰上合格がなかったことは、進学校の中でも特に注目すべきことです。同校の人気の強さを示す結果となっています。

城北は前年（倍率1.30倍）からの反動で今年は厳しい入試となりました。巣鴨は2023年に大きく倍率が跳ね上がりましたが、徐々に下降傾向にあります。5教科入試の導入により都立トップ校の併願先として人気が上昇したものの、その難度の高さから若干の敬遠傾向が出始めている可能性があります。

2025年度
首都圏高校入試を
振り返る

東京都 高校の入試状況

都立推薦入試の志願者減少 合格のチャンスが広がる

都立高校推薦入試の志願者数は、過去3年間約23,000名で推移しましたが、今春は21,000名台まで減少しています。倍率も従来の2.50倍から2.28倍へと大きく低下し、推薦入試で合格できる可能性が高まっています。この志願者数の減少は、都立高校全体の志願者が減少している傾向を反映したものです。この状況は、受験生にとっては有利にはたきます。

従来の推薦入試は、倍率が高く、「合格できたらラッキー」という感覚で受験する生徒が多い傾向にありました。現在の倍率低下は、都立高校をめざす生徒にとっては、合格を勝ち取る大きなチャンスといえることができます。

ただし、注意すべき点が2つあります。1つ目は、推薦入試では合否判定において内申点が大きな比重を占めるということ

です。つまり、中学校における普段の学習や生活態度が非常に重要になります。

2つ目は、推薦入試特有の試験内容です。一般入試と異なり、推薦入試では集団面接や小論文が課されます。そのため、通常の教科学習に加えて、面接や文章作成の練習も必要です。

推薦入試は準備すべき項目が多岐に渡りますが、計画的に取り組むことで十分に対応できます。学力や適性を考慮しながら、推薦入試という選択肢を視野に入れるのもよいでしょう。

都立一般入試、大きな変化の時期に 受験者数の減少と制度改革

都立高校一般入試の受験者数は前年の約39,000名から35,000名台へと大きく減り、全日制課程の平均倍率（受験者数÷募集人員）も1.35倍から1.27倍に下がっています。2016年度の入試では都立高校一般入試の受験者は約

45,000名でした。つまり約10年で1万名も減っています。特にここ数年の減少が顕著です。

従来、都立高校は男女別に定員を設けていましたが、これが2024年度に廃止され、「男女合同選抜」という新しい制度に変わりました。これにより、以前から問題となっていた「男女で合格ラインが違う」という不平等は解消されました。

このような大きな変化の背景には、少子化に加えて、私立高校への進学を考える生徒が増えていることや、高校選抜の観点が多様化していることがあります。こうした変化は、今後の都立高校の入試制度や学校運営にも影響を与える可能性があります。これらの変化をふまえた上で、進路を検討することが大切です。

高校選択の拡大 都立・私立、 それぞれの特徴を知ろう

高校教育の無償化により、高校の選択肢が大きく広がっています。これまで経済的な理由から都立高校だけを考えていたご家庭でも、私立高校への進学を検討できるようになってきました。

ただし、私立高校への進学を考える際には、いくつか注意すべき点があります。

1つ目は費用です。「高校無償化」と聞くと授業料が全額無料になるイメージがありますが、実際は年間約476,000円までが支援の上限となります。これを超える場合は差額を支払う必要があります。また、入学金や施設設備費、修学旅行などの積立金も必要です。都立高校と比べると、やはり費用面での負担は大きくなります。

2つ目は進学実績です。都立・私立と

もに学校によって大きな差があります。都立では日比谷が今春、東京大学に81名（現浪含）の合格者を輩出するなど、難関私立高校と同等以上の実績を残している一方で、学校間の差は広がる傾向にあります。

このように、高校選択の幅は確実に広がっていますが、いくつかの観点から慎重に検討する必要があります。

無償化制度をうまく活用しながら、適性や将来の目標に合った学校を選ぶことが肝要です。学校説明会などにも積極的に参加して、実際の学校の様子を確認されることをお勧めします。

都立高校の入試動向が変化 学校選びのポイントを考えよう

2025年度入試では、これまでになかった傾向が現れました。進学指導重点校では志願者が増加（7校合わせて前年より100名以上増加）している一方で、これまで人気の高かった進学指導特別推進校や進学指導推進校は志願者が減少しています。

進学指導特別推進校や進学指導推進校の多くは、それぞれの地域で人気の高い都立高校（地域のトップ校）や、それに次ぐ高校（準トップ校）です。これらの学校は、長年安定した志願者数を保ってきました。それだけに、志願者が2022年度の7,700名から7,000名を下回るまで減少したことは、大きな変化といえます。

このような変化が起きている理由として、大学合格実績の高い進学指導重点校に受験生が集中していることや、高校無償化により私立高校を選ぶ生徒が増えていることが考えられます。

しかし、大学合格実績や「進学指導重点校」という肩書きだけで高校を選ぶことは、かえって厳しい受験結果につながる可能性があります。進学指導特

◆ 2-2 東京都 学力選抜の結果（全日制）

	2025年度			2024年度			2023年度		
	男女問わず			男女問わず			合計		
	受検	合格	倍率	受検	合格	倍率	受検	合格	倍率
普通科	26,812	20,556	1.30	29,385	21,189	1.39	30,023	21,551	1.39
コース制	255	225	1.13	341	229	1.49	303	230	1.32
単位制	2,679	2,082	1.29	2,905	2,166	1.34	2,881	2,102	1.37
専門学科	4,094	3,630	1.14	4,284	3,702	1.16	4,255	3,657	1.16
総合学科	1,927	1,612	1.20	2,049	1,618	1.27	2,016	1,649	1.22

東京都ホームページより

◆ 2-3 進学指導重点校等の学力選抜結果

			2025年度			2024年度		
			男女問わず			男女問わず		
学科			受検	合格	倍率	受検	合格	倍率
進学指導重点校	日比谷	普通	396	272	1.46	354	268	1.32
	西	普通	331	261	1.27	368	260	1.42
	国立	普通	357	258	1.38	361	256	1.41
	八王子東	普通	356	257	1.39	320	257	1.25
	戸山	普通	439	259	1.69	401	258	1.55
	青山	普通	381	227	1.68	412	227	1.81
	立川	普通	308	224	1.38	292	225	1.30
		創造理数	147	37	3.97	83	36	2.31
合計		2,715	1,795	1.51	2,591	1,787	1.45	
進学指導特別推進校	小山台	普通	343	256	1.36	316	256	1.23
	駒場	普通	394	224	1.76	429	254	1.69
	新宿	普通	488	288	1.70	610	288	2.12
	町田	普通	282	257	1.10	338	257	1.32
	国分寺	普通	388	257	1.51	332	257	1.29
	国際	国際	147	101	1.46	195	101	1.93
	小松川	普通	289	257	1.12	308	257	1.20
	合計		2,331	1,640	1.42	2,528	1,670	1.51
進学指導推進校	三田	普通	327	208	1.57	359	208	1.73
	豊多摩	普通	478	255	1.87	407	254	1.60
	竹早	普通	299	211	1.42	296	179	1.65
	北園	普通	430	256	1.68	414	256	1.62
	墨田川	普通	264	255	1.04	302	254	1.19
	城東	普通	358	254	1.41	515	285	1.81
	武蔵野北	普通	236	192	1.23	235	191	1.23
	小金井北	普通	266	192	1.39	296	191	1.55
	江北	普通	400	255	1.57	361	255	1.42
	江戸川	普通	363	256	1.42	410	256	1.60
	日野台	普通	269	244	1.10	322	244	1.32
	調布北	普通	301	191	1.58	270	191	1.41
	多摩科学技術	科学技術	153	153	1.00	215	153	1.41
	上野	普通	451	257	1.75	450	254	1.77
	昭和	普通	380	256	1.48	359	255	1.41
	合計		4,975	3,435	1.45	5,211	3,426	1.52

東京都ホームページより

別推進校や進学指導推進校も、地域の進学校として長年の実績があり、充実した教育を行っています。

高校選びでは、次のような点も含めて幅広く検討することが大切です。

- 学校の教育方針に共感できるか
- 文化祭などの学校行事は活発か
- 参加したい部活動があるか

- 通学時間は適切か
- 学校の雰囲気は合っているか
- 特色ある授業や課外活動など、それぞれの学校がさまざまな取り組みを行っています。教科の成績だけでなく、受験生自身の興味や適性を考慮して選択することが、充実した高校生活につながります。

東京都ホームページより

2025年度
首都圏高校入試を
振り返る

神奈川県 高校の入試状況

首都圏最高でも 下降しつつある公立進学率

2025 年度の神奈川県公立高校入試では、中3卒業生が約750名減少することなどを見込んで、全日制の募集定員が前年より約550名削減されました。結果はほぼ想定の通り、受験者総数が900名あまり減少し、平均競争率は1.16→1.17倍とほぼ横ばいでした。

神奈川県は首都圏で最も公立志向が強く、公立志望率は75.0%となっています。しかし、前年の76.1%からは低下しており、ここ数年下降傾向が続いています。近年は授業料の補助制度が拡充されるなど、私立に通いやすい環境がいろいろな面で整ってきています。交通の便がよいエリアでは、東京都内の私立も選択肢に入ります。公立から私立に流れる動きはある程度自然なものといえるでしょう。

受験倍率は隔年現象的に 推移するも例外に注意

特色検査共通問題を実施する学校は、学力向上進学重点校が8校・同エントリー校が10校あります。これらの学校では、「自己表現検査」として「共通問題」および「共通選択問題」が必須とされており、教科横断的な内容で記述式の難問が出題されることが特徴です。

学力向上進学重点校をはじめとした県立上位校の競争率は、年ごとに倍率がジグザグに上下する隔年現象が見られることが多いです。とはいえ、2年連続して上昇、逆に下降している学校もあり、こうした動向をふまえて受験校を選定するとよいでしょう。

首都圏公立のなかで最上位レベルに

位置する横浜翠嵐は、競争率が隔年現象でわずかに下がりながらも県内唯一の2倍台を保っています。2年連続で上昇している学校として、川和・横浜国際・平塚江南・相模原があります。学校の取り組み・部活動の活躍・アクセスの良さなど、複合的な要因により受験者が集中することが背景にあります。逆に2年連続で競争率が低下した学校として光陵・茅ヶ崎北陵がありますが、それぞれの地域の上位校であることに変わりはなく、次年度は上昇に転じる可能性が高く注意が必要です。

そのほか、横浜市立の最難関である横浜サイエンスフロンティア（以下、横浜SF）はこの3年間の競争率が1.60→1.67→1.54倍と高い傾向にあります。

◆ 3-1 学力向上進学重点校・エントリー校及び横浜SFの競争率推移

		学力向上 進学重点校	特色検査	競争率		
				2025年度	2024年度	2023年度
横浜翠嵐	普通	指定	共通＋選択	2.04	2.14	1.98
湘南	普通	指定	共通＋選択	1.61	1.63	1.60
柏陽	普通	指定	共通＋選択	1.54	1.39	1.44
厚木	普通	指定	共通＋選択	1.16	1.41	1.25
川和	普通	指定	共通＋選択	1.41	1.25	1.20
横浜緑ヶ丘	普通	指定	共通＋選択	1.44	1.59	1.41
多摩	普通	指定	共通＋選択	1.67	1.63	1.87
小田原	単位制普通科	指定	共通＋選択	1.24	1.32	1.21
希望ヶ丘	普通	エントリー	共通＋選択	1.42	1.35	1.54
横浜平沼	普通	エントリー	共通＋選択	1.34	1.36	1.26
光陵	普通	エントリー	共通＋選択	1.27	1.29	1.45
横浜国際	国際（一般）	エントリー	共通＋選択	1.48	1.27	1.19
横須賀	普通	エントリー	共通＋選択	1.37	1.43	1.21
鎌倉	普通	エントリー	共通＋選択	1.32	1.52	1.25
茅ヶ崎北陵	普通	エントリー	共通＋選択	1.22	1.32	1.36
平塚江南	普通	エントリー	共通＋選択	1.38	1.23	1.19
大和	普通	エントリー	共通＋選択	1.56	1.46	1.53
相模原	普通	エントリー	共通＋選択	1.30	1.25	1.22
横浜 SF	単位制理数科		自校作成	1.54	1.67	1.60

神奈川県ホームページより

合否判定方法は 学校によって違う

神奈川県では、各校の教育方針や選抜で重視したいところに合わせたアレンジが行われています。各校の合否判定方式の違いは、自分に合った学校を見極める材料にもなります。

違いの1つに挙げられるのは得点の配分です。これは、特定の教科について、評定や学力検査の得点を1.5～2倍にして評価するというものです。たとえば、神奈川総合の国際文化コースは英語の学力検査点が2倍になります。また、同校の個性化コースでは最も得点の高かった教科の点数を2倍にする方式を採用しています。特徴的なのは横浜 SF です。

◆ 3-2 公立高校の入試制度について

① 2025年度入試の合否判定方法

調査書 135点満点	学力検査 500点満点	特色検査
9教科の評定を 2年次×1＋3年次×2で 点数化	英数国理社 各 100点	自己表現 実技 面接

※第2次選考において、面接のかわりに調査書の観点別評定のひとつ「主体的に学習に取り組む態度」が選考資料として使われることとなりました。
※特色検査は、全日制普通科では約22.6%の学校で実施されます。（2025年度）

合否判定は2段階

第1次選考（定員の90%） 3項目の配点比率を各校で決定 ○ 調査書：学力検査の比率は各項目2以上、合計10とする。 ○ 特色検査は1～5の間で決める（実施する場合）。	第2次選考（定員の10%） 3項目の配点比率を各校で決定 ○ 観点別：学力検査の比率は各項目2以上、合計10とする。 ○ 特色検査は1～5の間で決める（実施する場合）。
--	--

② 2025年度入試の配点比率例

	第1次選考			第2次選考		
	調査書	学力	特色	観点別	学力	特色
横浜翠嵐	3	7	3	2	8	2
湘南	4	6	2	2	8	2
川和	4	6	1	3	7	1
多摩	4	6	2	2	8	2
相模原	5	5	1	2	8	2
市ヶ尾	5	5	－	2	8	－

調査書は英語・数学・理科の点数を、学力検査は数学・理科の点数をそれぞれ2倍にしています。

私立高校入試では 書類選考が人気

県内の私立高校では書類選考入試が広がっています。各校の出願基準をクリアしていれば、筆記試験はなく、書類のみで合格が決まる入試です。実施校には上位校や人気校も名を連ねており、県立高校志望の受験生も多く活用しています。

受験生は合格校を確保したうえで、より上位の志望校を受験できます。メリットが大きい制度ですが、希望の高校に出願できるよう、学校成績をできるだけ高く修めておくことが必要です。

制度変更が行われる学校もあります。鎌倉女子大（高等部）の共学化・「鎌倉国際文理」への校名変更、日大藤沢のオープン入試導入、森村学園の募集再開、法政国際の書類選考基準変更などが主な変更点です。特に日大藤沢では、新制度による志願者増加が注目されています。

面接の全校実施を廃止 第2次選考に観点別評価を導入

2024年度、入試制度に2つの変更がありました。1つは、面接の全校実施が廃止されたことです（一部の学校が特色検査で引き続き実施）。これにより、第1次選考の判定資料は調査書・学力検査・特色検査の3つになりました。

もう1つの変更点は、第2次選考で調査書の観点別評価の1つ「主体的に学習に取り組む態度」の評価（ABCの段階）が使われることになったことです。すなわち、第2次選考の判定資料は第1次選考と同じ調査書・学力検査・特色検査になり、これらの配点比率の決め方も同じです。調査書点の中身だけが異なっています。

第2次選考で調査書を使うことになったため、調査書点に自信がない生徒が第2次選考に狙いを絞って学力勝負で受検に臨む、という作戦が成立しなくなりました。ただし、定員の10%という狭い枠の中のことですので、大勢に影響はないものと思われます。

◆ 3-3 私立高校の選抜方法

学校名	推薦	筆記選考	書類選考
旭丘	○	○	－
麻布大学附属	○	○	○
アレセア湘南	○	○	○
英理女子学院	○	○	○
大西学園	○	○	－
柏木学園	○	○	○
鎌倉学園	－	○	○
鎌倉女子大学	○	○	○
関東学院六浦	○	○	○
函嶺白百合学園	○	○	－
北鎌倉女子学園	○	○	○
鶴沼	○	○	○
慶應義塾	○	○	－
慶應義塾湘南藤沢	一部三県を除く国内・国外の在住者対象の選考のみ（若干名）。		
向上	○	－	○
相模原（私立）	○	○	○
相模女子大学	○	○	○
湘南学院	○	－	○
湘南工科大学附属	○	○	○
星槎	○	○	－
聖セシリア女子	○	○	○
聖ヨゼフ学園	○	○	○
聖和学院	○	○	○
捜真女学校	○	－	○
相洋	○	○	○
橘学園	○	○	－
立花学園	○	○	○
中央大学附属横浜	○	○	○
鶴見大学附属	○	○	○
桐蔭学園	○	○	○
東海大学付属相模	○	○	－
桐光学園	○	○	－
藤嶺学園藤沢	○	○	○
日本女子大学附属	○	○	－
日本大学	○	○	－
日本大学藤沢	○	○	－
白鷺女子	○	○	○
平塚学園	○	○	○
藤沢翔陵	○	○	○
武相	○	○	○
法政大学国際	○	○	○
法政大学第二	－	○	○
三浦学園	○	○	○
聖園女学院	○	○	－
緑ヶ丘女子	○	○	○
森村学園	－	－	○
山手学院	○	○	－
横須賀学院	○	○	○
横浜	○	○	○
横浜学園	○	○	○
横浜商科大学	○	○	○
横浜翠陵	○	○	○
横浜清風	○	○	○
横浜創英	○	○	－
横浜創学館	○	－	○
横浜隼人	○	○	○
横浜富士見丘学園	○	○	－
合計 57校	53校	51校	41校

2025年度
首都圏高校入試を
振り返る

千葉県 高校の入試状況

県立高校の人気度、 安定的に推移

千葉県の2025年度公立高校入試において、公立高校を第一志望とする生徒の割合（公立志望率）が70.7%となり、前年度から0.3ポイント上昇しました。近接する東京都では私立志向が強まり、公立志望率が大きく低下していますが、千葉県では依然として多くの受験生が公立高校をめざしています。

県内の注目すべき動きとして、難関校の実績変動があります。2024年度の東京大学現役合格者数において、県立船橋が県立千葉を上回る結果を出しました。これは県内の教育関係者にとって大きな話題となり、2025年度入試では受験生の志望動向にも影響がありました。具体的には、従来トップ校として知られる県立千葉の志願者数が減少する一方、県立船橋や東葛飾に志願者が集まる傾向が見られています。

ただし、2025年度の東京大学現役合格実績では、県立千葉が再び高い実績を示しています。このため、次年度の入

試では再び同校に志願者が集中することが予想されます。

学区選びが志望校の 選択肢を左右する

千葉県の公立高校入試では、学区によって受験のしやすさが大きく異なります。ここでは、特徴的な第二学区と第三学区の状況をご説明します。

● 第二学区： 選択肢が豊富で柔軟な受験が可能

船橋市や市川市を含む第二学区には、多くの公立高校が設置されています。そのため、受験生は自分の学力に合わせて複数の選択肢を持つことができます。例えば、少しチャレンジングな学校を第一志望にしつつ、より確実に合格できる学校も視野に入れるといった戦略が立てやすい環境です。

実際、船橋二和や市川昂といった中堅レベルの学校は、年によって志願者数が大きく変動します。これは、前年度の入試結果を見た受験生が、より有利な合格をめざして志望校を変更できるためです。

● 第三学区： 交通と学校数の制約で選択肢が限定的

一方、柏市や我孫子市などがある第三学区では、状況が大きく異なります。この地域は主な交通手段が常磐線と東武アーバンパークラインに限られ、学校も第二学区より少ないため、受験生の選択肢が限られています。

例えば、柏南を志望していた生徒が、より合格しやすい学校に変更しようとしても、学力レベルが大きく下がる学校しか選べません。

ただし、つくばエクスプレス沿線では人口増加に伴い、柏の葉や流山おおたかの森への志願者が増加傾向にあり、新たな受験動向も生まれています。

公立高校を志望される場合、まずお住まいの学区の特徴を理解することが重要です。第二学区では複数の受験パターンを検討できる一方、第三学区では早めに志望校を絞り込む必要があるかもしれません。受験生の学力レベルや通学のしやすさを考慮しながら、余裕を持って受験計画を立てることが大切です。

公立入試の「思考力」重視強まる 難関校で新テスト導入広がる

従来の学力検査に加えて「思考力を問う問題」の導入が進んでいます。

入試の合否判定は、学力検査（500点満点）、調査書（135点満点）、学校設定検査（単独実施で100点、複数実施で150点以内）の3要素で行われています。この際、調査書の比重を調整する「K値」が設定され、これは0.5から2.0の範囲で各校が決定します。難関校の多くは学力検査重視の姿勢を示し、K値を0.5に設定しています。

注目されるのは、2022年度から県立千葉が導入した「思考力を問う問題」です。英語・数学・国語で構成される応用レベルの試験で、2023年度からは東葛飾、千葉東も同じ問題を採用しています。試験時間60分、100点満点のこの検査により、3校の合否判定は学力検査と思考力問題で全体の約90%（667.5点中600点）を占めることになりました。2024年度は新規採用校はありませんでしたが、今後、ほかの難関校への広がりが注目されています。

なお、部活動や生徒会活動などの実績を評価する「調査書加点」制度（上限50点）もありますが、難関校では「加点なし」とするところが多く、市立千葉の15点、幕張総合の10点など、合否への影響は限定的となっています。

私立高校の動向に大きな変化

併願優遇制度とは、私立高校入試において、公立高校との併願受験を考える生徒向けに設けられるものです。この制度を利用すると、私立高校に合格しつつ、公立高校の受験にもチャレンジでき

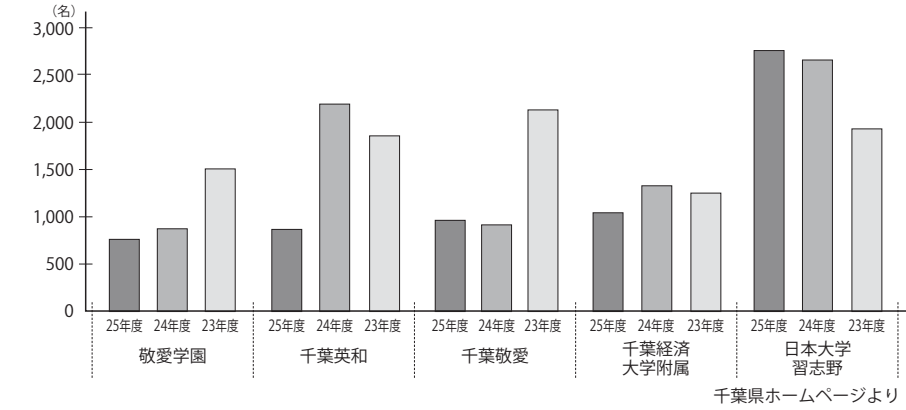
◆ 4-4 K値の採用状況（表にない学校のK値はすべて「1」です）

K = 0.5		K = 2			
県立千葉	普通科	船橋啓明	普通科	鎌ヶ谷西	普通科
千葉東	普通科	八千代東	普通科	市原緑	普通科
県立船橋	普通科	銚子	普通科	沼南	普通科
	理数科	船橋二和	普通科	沼南高柳	普通科
東葛飾	普通科	野田中央	普通科	我孫子東	普通科
佐倉	普通科	佐倉東	普通科	浦安南	普通科
	理数科		調理国際科	関宿	普通科
小金	総合学科		服飾デザイン科	銚子商業	商業科
		犢橋	普通科		情報処理科
		四街道北	普通科		海洋科
		船橋北	普通科		普通科

◆ 4-5 学校設定検査の実施状況

検査種類	実施校・学科数	実施校の例
その他の検査 (思考力を問う問題)	3校	県立千葉・千葉東・東葛飾
作文	9校13学科	県立船橋・小金・県立柏など
自己表現	44校57学科	幕張総合・津田沼・市立船橋など
集団討論	1校	八千代
小論文	1校2学科	市立千葉
適性検査	8校10学科	千葉女子・下総・市立柏など
面接	72校110学科	薬園台・国分・松戸国際など

◆ 4-6 私立高校 志願者数が急変した学校（前期選抜）



ます。そして、公立高校に合格した場合は、私立高校の入学を辞退できます。

2024年度入試では、千葉敬愛と敬愛学園がこの制度を取りやめました。その結果、制度を維持していた千葉英和に多くの受験生が集中しました。しかし、2025年度入試では千葉英和もこの制度を廃止しました。これにより、同校の志願者数は前年の3分の1まで減少し、制度を継続しているほかの学校に受験生が移動する現象が起きています。

もちろん、一般入試を行う私立高校も数多くあります。大学進学実績の高さやアクセスの良さ、学習活動の取り組みが魅力的な学校には県外からの受験者も集まります。2024年度入試で11.85倍という高い志願倍率を記録した専修大松戸は、2025年度は志願者が約300名減少しました。このように倍率が変化しやすい学校は、隔年現象により、次年度は受験者が集まる可能性があります。

◆ 4-1 上位校の入試結果

学校名	学科名	募集定員	実質倍率		
			2025年度	2024年度	2023年度
県立千葉	普通科	240	1.26	1.44	1.51
県立船橋	普通科	320	1.72	1.91	1.74
東葛飾	普通科	240	1.94	1.85	1.96
佐倉	普通科	280	1.28	1.55	1.41
千葉東	普通科	320	1.30	1.28	1.34
薬園台	普通科	280	1.66	1.50	1.45
小金	総合	320	1.58	1.61	1.51
木更津	普通科	280	1.27	1.44	1.24
市立千葉	普通科	280	1.49	1.51	1.71
八千代	普通科	240	1.53	1.34	1.39
県立柏	普通科	280	1.26	1.27	1.31
船橋東	普通科	320	1.58	1.57	1.55
長生	普通科	240	※1.22	※1.14	1.07
幕張総合	総合	640	1.64	1.52	1.57
柏南	普通科	360	1.54	1.52	1.43
鎌ヶ谷	普通科	320	1.53	1.43	1.31
上記16校平均倍率			1.50	1.49	1.46
全日制平均倍率			1.20	1.20	1.20

※理数科と合算

◆ 4-2 理数系学科の入試結果

学校名	学科名	募集定員	実質倍率		
			2025年度	2024年度	2023年度
県立船橋	理数科	40	1.58	2.15	1.65
佐倉	理数科	40	1.43	1.55	1.48
木更津	理数科	40	1.40	1.28	1.18
市立千葉	理数科	40	1.49	1.75	1.70
県立柏	理数科	40	1.13	1.60	1.10
長生	理数科	40	※1.22	※1.14	1.18
佐原	理数科	40	0.68	1.00	0.90
成東	理数科	40	※1.09	※1.03	1.00

※普通科と合算

◆ 4-3 国際系学科の入試結果

学校名	学科名	募集定員	実質倍率		
			2025年度	2024年度	2023年度
成田国際	国際科	120	1.32	1.45	1.32
松戸国際	国際教養科	120	1.40	1.46	1.29
東金	国際教養科	40	1.03	1.05	0.95
流山おおたかの森	国際コミュニケーション科	40	1.10	1.53	1.45
市立松戸	国際人文科	40	1.05	1.53	1.28

千葉県ホームページより

2025年度
首都圏高校入試を
振り返る

埼玉県 高校の入試状況

埼玉県の公立・私立志願動向 2025年度分析

埼玉県の公立・私立高校の志願動向に大きな変化は見られませんでした。中学3年生のうち公立高校を志望する生徒は前年の63.8%から63.9%とほぼ横ばいです。私立高校の志望者は前年の17.3%から17.8%へとわずかに上昇しました。

東京都や大阪府などでは、授業料の無償化によって私立高校を志願する受験生が大幅に増加しています。しかし、埼玉県は公立高校の志願率を高い水準で維持している数少ない地域といえます。

地域別にみる埼玉県の 高校志願動向

埼玉県の高校志願動向は、エリアごとの特徴があります。特に顕著な違いが見られるのは、さいたま市エリアと西部エリアです。

■さいたま市エリア(旧第一学区)の特徴

公立高校への志願者が増加傾向にあります。特に2025年度は県立浦和、大宮で志願者数が増加しています。これは前年度に志願者が減少したことの反動ですが、県立浦和は一昨年の水準に戻ったのに対し、大宮はここ数年で最も高い倍率(1.50倍)となりました。この地域では、偏差値55～60程度の中間層の学校に人気が集中しており、公立志向が強く見られます。これは、適度なレベルの公立高校が多く存在することが要因と考えられます。

■西部エリア(旧第二学区)の動向

和光市、朝霞市、川越市、所沢市などの西部エリアでは、さいたま市エリアとは対照的に公立高校の志願者が減少しており、特に和光国際の減少が顕著です。このエリアでは中間レベルの公立高校が少なく、居住地域や利用できる路線によっ

て高倍率の人気校が固定化しがちです。

■その他エリアの状況

越谷エリアでは全体的に公立志願者の増加傾向が見られる一方、春日部エリアでは大きく減少しています。春日部エリアの減少傾向については、人口減少の影響が志願動向に反映されている可能性があります。一昨年からの動向では、春日部が連続で倍率が上昇し、越谷北が連続で低下していましたが、今年度の入試でようやく反発し2校の倍率が大きく乖離する状況が解消されました。

このように、埼玉県の公立志願動向は地域ごとに異なる特徴を示しており、公立高校の配置状況や地域の人口動態が、志願動向を左右する重要な要因となっています。

埼玉県における高校入試の 合格判定の特徴

埼玉県の公立高校入試では、独自の合格判定方針が採用されています。その一部をご紹介します。

◆5-1 学校選択問題実施校の入試結果

		2025年度入試				2024年度	2023年度
		募集	受検	合格	倍率	倍率	倍率
県立浦和	普通科	360	512	359	1.43	1.27	1.43
浦和第一女子	普通科	360	464	361	1.29	1.29	1.30
浦和西	普通科	360	516	362	1.43	1.41	1.43
大宮	普通科	320	477	319	1.50	1.32	1.39
春日部	普通科	360	489	358	1.37	1.47	1.29
川口北	普通科	360	458	358	1.28	1.45	1.27
川越	普通科	360	521	362	1.44	1.44	1.38
川越女子	普通科	360	419	358	1.17	1.29	1.34
川越南	普通科	360	530	358	1.48	1.38	1.41
熊谷	普通科	320	335	319	1.05	1.10	1.12
熊谷女子	普通科	320	323	318	1.02	1.00	1.12
熊谷西	普通科	280	284	278	1.02	1.16	1.10
越ヶ谷	普通科	320	426	319	1.27	1.37	1.40
越谷北	普通科	320	404	318	1.27	1.14	1.16
所沢	普通科	360	463	358	1.29	1.41	1.32
所沢北	普通科	320	398	318	1.25	1.09	1.30
不動岡	普通科	360	482	358	1.35	1.33	1.30
和光国際	普通科	240	284	238	1.19	1.46	1.43
蕨	普通科	320	424	318	1.33	1.49	1.33
市立浦和	普通科	240	449	246	1.83	1.68	2.13
市立大宮北	普通科	280	407	287	1.42	1.35	1.07
川口市立	普通科	240	401	244	1.64	1.26	1.93

埼玉県ホームページより

■定員割れ時の判定方針

埼玉県では、志願者数が募集定員を下回る「定員割れ」の状況であっても、学校が設定した合格ラインに達していない場合は不合格とする特徴的な方針を採用しています。

■他学科・コースへの「第二志望」

複数の学科・コースを設置している学校の多くが、学科・コースの「第二志望」を認めています。たとえば、理数科と普通科を設置している高校があるとして、第一志望を理数科、第二志望を普通科として出願することができます。

後述しますが、選抜はふつう2段階で行われます。第1次選抜では、第一志望の学科・コースのみで判定されます。第1次選抜で合格とならなかった受験生は、第2次選抜にかけられます。第2次選抜では、第一志望の学科・コースの定員内であれば当然合格となります。第一志望の学科・コースが不合格であったとしても、第二志望の学科・コースの定員内であればそちらで合格となります。第2次

選抜においては、第一志望だから有利、第二志望だから不利ということはなく、あくまで得点の高い者から合格する仕組みになっているといえます。

なお、「第二志望に準ずる志望」という別の制度もあります。これは、全ての選抜終了後、定員を満たしていない学科・コースで実施されるものであり、県内ではわずか4校でのみ実施されています。

2027年度、 埼玉公立入試が変わる

埼玉県の公立高校は、2027年度(現中2が高校入試に臨む年)入試から選抜方法の変更が予定されています。その大枠は以下の通りです。

- ① **面接の実施**…自己評価資料に基づき、すべての受験者に面接を行います。
- ② **調査書の形式**…3年間の9科の評定を基本とします。また自己評価資料として、学校内外での活動内容等を受験生が自らの言葉で記します。
- ③ **選抜の特色化**…「共通選抜」ではすべての高校が学力検査・調査書・面接を資料として選抜します。さらに募集定員の一部を「特色選抜」で選抜できます。ここでは特色検査(実技検査・小論文等)や学力検査等の傾斜配点も行うことができます。

制度変更に向けて、現在の志願動向や合格判定の特徴をふまえた準備が進められています。特に、理数系の人気上昇や外国語学習に対応した柔軟な制度設計が求められています。2027年度の制度変更は、現在の入試動向をふまえつつ、将来の教育ニーズに対応する重要な転換点となることが予想されます。

◆5-2 外国語科の入試結果		2025年度				2024年度	2023年度
		募集	受検	合格	倍率	倍率	倍率
大宮光陵	外国語コース	40	46	40	1.15	1.15	1.08
春日部女子	外国語科	40	35	39 ※	0.90	1.45	1.28
越谷南	外国語科	40	60	40	1.50	1.40	1.15
坂戸	外国語科	40	41	40	1.03	0.90	1.13
草加南	外国語科	40	45	40	1.13	1.02	1.08
南稜	外国語科	40	47	40	1.18	1.46	1.28
和光国際	外国語科	80	98	79	1.24	1.47	1.16
蕨	外国語科	40	57	40	1.43	1.34	1.32

◆5-3 理数科の入試結果		2025年度				2024年度	2023年度
		募集	受検	合格	倍率	倍率	倍率
大宮	理数科	40	84	40	2.10	2.07	2.20
熊谷西	理数科	40	28	32 ※	0.88	1.34	1.20
越谷北	理数科	40	82	40	2.05	1.41	1.95
所沢北	理数科	40	81	40	2.03	1.30	1.48
松山	理数科	40	56	40	1.40	1.58	1.50
市立大宮北	理数科	40	89	42	2.12	1.81	1.68
川口市立	理数科	40	51	41	1.24	1.56	1.98

※スライド合格を含む

難関校は学力重視 諸活動・検定などは+αに

埼玉県公立高校入試の合否判定資料は「学力検査」と「調査書」で、この2つの合計点で合否が決まります。選抜は2段階で行われますが、学力検査と調査書の比率は学校ごとに定められています。学力を重視したい難関校では、第1次選抜は6：4(500：334程度)、第2次選抜は7：3(500：215程度)とする学校が大多数です。また、学力検査の割合を大きくできる第2次選抜になるべく多くの定員を割いています。

◆5-4 入学者選抜基準の例

学校名 (普通科)	入学許可候補者		学力検査：調査書		評定の学年比率			調査書の点数化		
	1次選抜	2次選抜	1次選抜	2次選抜	1年	2年	3年	評定	特別活動	その他
県立浦和	60%	40%	500：334	500：215	1	1	2	180	70	70
浦和第一女子	60%	40%	500：335	500：215	1	1	2	180	120	35
浦和西	60%	40%	500：335	500：217	1	1	2	180	120	10
大宮	60%	40%	500：334	500：215	1	1	2	180	90	90
春日部 ※	60%	39%	500：334	500：215	1	2	4	315	100	85
川口北	70%	30%	500：334	500：240	1	1	2	180	80	50
川越	60%	40%	500：335	500：215	1	1	2	180	55	30
川越女子	60%	40%	500：334	500：215	1	1	2	180	30	30
川越南 ※	70%	28%	500：335	500：215	1	1	3	225	80	30
熊谷	60%	40%	500：335	500：215	2	2	5	405	55	10
熊谷女子	60%	40%	500：334	500：215	1	1	2	180	60	20
熊谷西	60%	40%	500：345	500：216	1	1	2	180	25	25
越ヶ谷	60%	40%	500：335	500：215	1	1	3	225	80	20
越谷北	60%	40%	500：335	500：216	1	1	2	180	70	20
所沢 ※	60%	38%	500：335	500：215	1	1	2	180	50	40
所沢北 ※	60%	38%	500：335	500：215	1	1	3	225	60	50
不動岡 ※	60%	39%	500：336	500：216	1	2	3	270	100	30
和光国際 ※	60%	38%	500：334	500：217	1	1	3	225	70	20
蕨 ※	60%	38%	500：335	500：215	1	1	2	180	100	10
市立浦和	60%	40%	500：334	500：215	1	1	2	180	120	60
市立大宮北	70%	30%	500：350	500：215	1	2	3	270	60	20
川口市立	60%	40%	500：335	500：215	1	1	2	180	60	30

※第3次選抜を実施して入学許可候補者を100%にする学校です。選抜の詳細は県のホームページでご確認ください。

学校選びのための
さまざまな視点

高校入試において重要となる情報を整理していききたいと思います。

まずは、次ページのアンケート結果をもとに受験に対する意識について見ていきます。生徒と保護者で大きく異なる結果が出ており、受験本番を迎えるまでの情報収集について考えさせられます。また、高校選びにおいて生徒が重視するポイントもご紹介します。ご家族で話し合うときの参考にしてください。

学校選びの決め手になるのは？

子どもはスロースターター

生徒と保護者ではっきりと正反対の結果が出たのが、「受験について初めて意識した時期」（次ページ 図 1）についてです。77.8%とおよそ 8 割の保護者が、生徒が中3になる以前の段階で受験を意識し始めています。それに対して、生徒の 53.1%は、受験を意識するのが中3以降になっています。「受験生なんだ」と自覚するのが中3になってからという生徒がおよそ 5 割ということになり、その意味ではスロースターターと言ってよいでしょう。保護者からすると、もっと早くから受験に対して真剣になってほしいところでしょうが、意識の差が存在するのは事実です。むしろ、お子さまが中1・中2の段階では高校の情報を集めるのは保護者の役割と割り切って考えたほうがよいのかもしれない。



高校選びで価値ある情報とは

では、高校選びでは何を重視すべきなのでしょう。ご家庭の方針がまだ決まっていないようでしたら、実際に通われるお子さまの意見を尊重してみてはいかがでしょうか。志望校選びの際に学習面で生徒が重視するベスト3（次ページ 図 2）は、1 位から順に「学校の教育方針・校風」、「自分の成績・学力に相応」、「大学への進学実績」となっています。保護者からしても概ね同意できる結果ではないでしょうか。

ご注意いただきたいのは、3位の「大学への進学実績」です。46.3%が重視したポイントとして挙げており、かなり高い数値となっています。さらに、アンケート方式が「最大3つまで回答可」となっているため単純な足し算はできませんが、「系列校への内部進学制度」も 12.8%が重視したと答えています。「大学進学」が受験生の学校選びに大きなウエイトを占めるようになってきていることがうかがえます。

近年、大学の学部・学科が多様化しています。例えば、共創工学部、ウェルビーイング学部、アントレプレナーシップ学部などです。これらの学部でどのようなことを学ぶのでしょうか。情報を集めたうえで、どの学部・学科でどのようなこと

を学びたいのか、しっかり考えることが大切です。大学での学びは将来の夢や職業につながっていきます。高校選びは大学選びとも密接に関連するので、しっかりと自身の未来を描くことが重要です。

大学入試についても敏感に

大学入試では、2025年の春に新指導要領にもとづく初めての試験が実施されました。入試制度の変更や学部学科の新設など、毎年、目まぐるしく変化するのが大学入試の特徴です。2027年度入試から慶應義塾大経済学部では試験科目から小論文がなくなります。また、2026年には立教大学に環境学部が、2027年には中央大学に健康スポーツ科学部と農業情報学部が、東洋大学に環境イノベーション学部が新設されます。大学附属校を検討する場合は大学の変更点にも注意を払う必要があります。

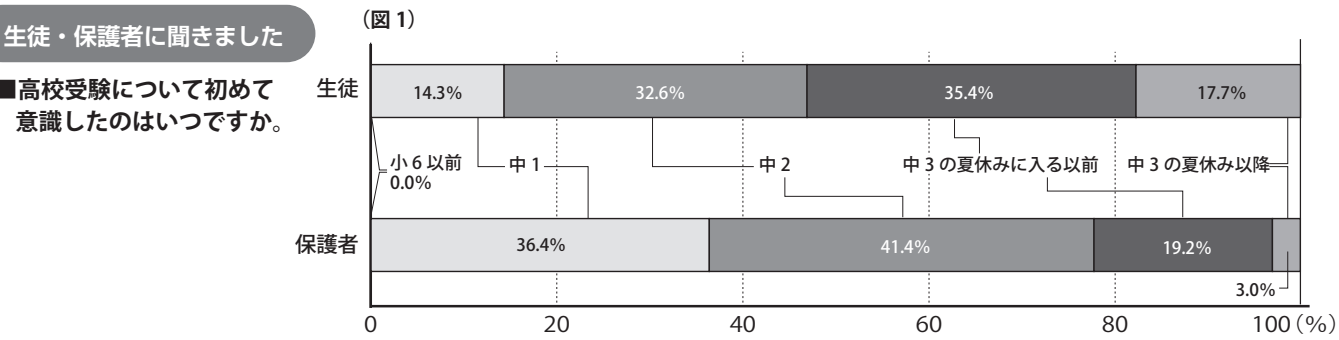
学校見学・説明会への参加

そのためにも、学校見学や説明会などは積極的に活用しましょう。志望校選びの際に生徒が学習面で重視するポイントはすでに紹介しましたが、学習面以外においては「在校生の雰囲気」「文化祭などの学校行事が盛ん」がともに上位となっています（図 3）。

これは実際にその高校を訪問して確かめる以外の方法はないように思えますが、現在はオンラインでの見学や説明会も盛んです。在校生が中心になって学

生徒・保護者に聞きました

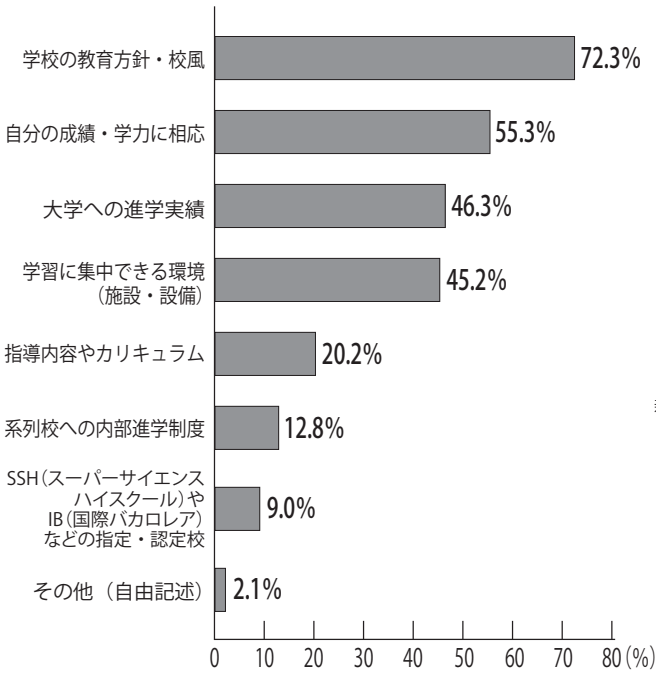
■高校受験について初めて意識したのはいつですか。



生徒に聞きました

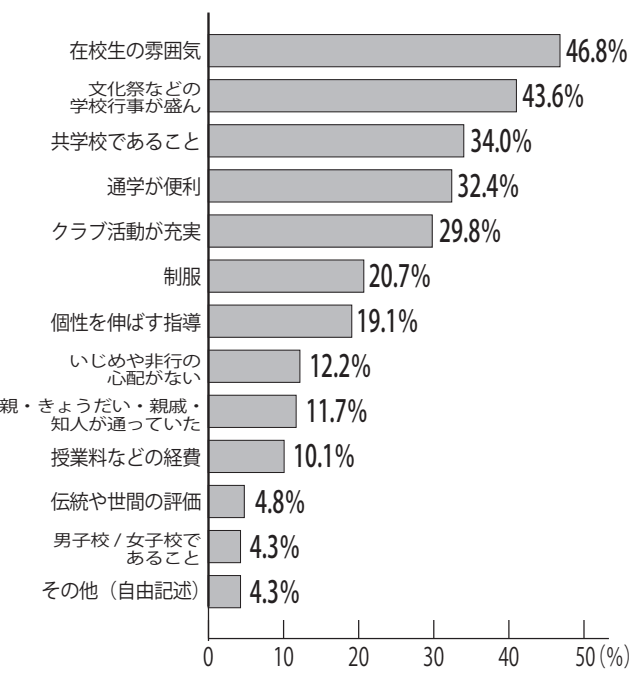
(図 2)

■志望校・受験校を選ぶ上で、学習面について重視した点を 3 つまで教えてください。（複数回答）



(図 3)

■志望校・受験校を選ぶ上で、学習面以外について重視した点を 3 つまで教えてください。（複数回答）



（栄光ゼミナール実施の「2025 年高校入試アンケート」より）

公立高校と私立高校…学校見学の注意点

通いやすい地域に
目標となる学校はある？

前章の結論として「学校見学」をお勧めしました。そうすると「どの学校を見学すればよいのか」が問題となります。高校は大きく分けて、公立高校と私立高校があります。さらに私立高校は、大学附属校と非附属校があり、それぞれで学

校の性格が異なります。

ご家庭の方針としてすでに見学先が決まっているのであれば、最初の見学先としては公立高校をお勧めします。

その理由として真っ先に挙げたいのが「近い」ということです。東京は例外ですが、公立高校は私立高校の 2 ～ 3 倍以上の学校数があります。しか



も立地場所に偏りがないように各地域に配置されています。ご自宅から通いやすい範囲に、目標とすべき学校が存在する確率は公立高校のほうが確実に高いと言えるでしょう。ちなみに、東京は学校数のみの比較だと、私立高校のほうが多くなりますが、高校募集をしていない私立中高一貫校も含まれるため、公立：私立の学校数比率は1：1といったところです。「近さ」にも関連しますが、「情報の得やすさ」も大きなポイントです。ここでいう情報とは、「実際にその学校に通っている（いた）」生徒・保護者からの「生の声」とお考えください。先ほど公立高校と私立高校の学校数の比較をしましたが、募集定員となると公立が全体の6割程度を占めます。東京もほぼこの比率に近く、例外ではありません。極端かもしれませんが、すぐ近所に相談相手がいる可能性が高いわけです。

さらに、公立高校の多くは全日制普通科です。後述する私立高校が学力別・目的別に複数のコースを設置しているのに比べると物足りなさを感じるかもしれませんが、見学すべき視点を絞りやすいという利点もあります。こうした視点の固定化は、複数の公立高校を比較するときはもちろん、何よりも「高校とはこういうところだ」という基準を作るのに役立つことでしょう。

一方、私立高校はどうでしょうか。近年は私立高校の人气が上がり、特に大学附属校は難化の傾向が強く出ていま

す。附属校の定義は少し難しいものがありますが、校名についている「〇〇大学」に過半数の生徒が内部進学している学校とここでは考えておきましょう。逆に言えば、校名に「□□大学」と入っていても他大学受験を積極的にすすめる学校もあるわけで、そうした学校は準附属校といえます。校名のみでの区別は不可能なので、学校ごとに丁寧に調べ、見学の際に確認する必要があります。

コース名で判断せず、指導内容を十分確かめる

また、先述したように1つの学校の中に複数のコース（クラス）を設置するところが増えています。部活動の全国大会

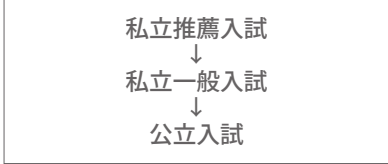
出場などを除けば、私立高校の生徒募集に大きく影響するのはやはり「大学進学実績」です。難関大学進学をめざした特別な指導を施すという意味の「特進コース」は以前からありましたが、ここ最近はさらに細分化が進み「プレミアムコース」「アドバンストコース」といった名称が用いられることもあります。さらにAIの進化やグローバル化といった社会全体の変化に対応した教育をめざし、「グローバル〇〇コース」「インターナショナル◇◇コース」などを新設する学校も目立ちます。新たなコースを作る際は、教材・カリキュラムの選定・作成はもちろん、専門教職員の招聘・育成の必要性まで慎重に検討し設計されるものです。コースの設置が、単なる名称変更なのかコース名にふさわしい内容を伴うものなのかは校名同様、コース名のみで判断することはできず、時間をかけて見極めなければなりません。資料の確認だけでなく、実際の様子を見学で確かめるようにしましょう。学校見学ではその学校の先生と質疑応答の場が設けられることがあります。カリキュラム内容などについては、納得がいくまで質問してください。

入試の注意点について

高校入試の大まかな流れとは？

学校見学などの調査を通して徐々に志望校が絞り込まれていくと、具体的なスケジュールと選抜方法が気になるところです。入試のスケジュールについては、年度ごとの変更もあるのでホームページなどで最新の情報を確認するようにしてください。

ここでは、まず高校入試の大まかな流れについて見ていきます。名称・実施の期間などは都県によって異なりますが、一般的には次のようになります。



東京都の場合は公立（都立）入試にも推薦入試があり、私立推薦入試の後（私立一般入試の前）に行われます。

私立高校の典型的な入試形態・選抜方法については、次ページの表をご参照ください。学校によって入試の名称が異なることもありますので、志望校決定の段階では学校ごとに確認が必要です。

●私立高校の典型的な選抜方法

入試形態	名称	出願条件	入学条件
推薦入試	—	第一志望であること 内申基準あり	出願＝ほぼ合格＝入学
一般入試	第一志望 優遇	第一志望であること 内申基準あり、なし	合格したら必ず入学
	併願優遇	公立高校が第一志望、 その私立高校が第二志望であること	公立高校が不合格の場合 必ず入学
	オープン	条件なし 他の私立高校が第一志望でも可	条件なし

推薦入試とは？

ここからは、それぞれの入試について見ていきます。

まずは推薦入試ですが、「入試相談（事前相談・個別相談）」で合否がほぼ決定されます。「入試相談」とは、私立高校と中学校の間で行われる推薦入試についての話し合いのことです。通常は10月～12月に開かれ、私立高校が提示した出願基準をもとに中学校側が志願者を推薦しますが、埼玉県の場合は中学校ではなく受験生本人が高校に成績などを提出する個別相談となります。いずれにせよ、この「相談」の段階で出願が認められれば、ほぼ合格となります。そのため、多くの推薦入試の応募倍率は1.0倍になっているのです。ただし、上位難関校や大学附属校を中心に、一部の私立高校では試験当日に「作文」や「面接」、あるいは「適性検査」などと呼ばれる学力検査を実施することがあります。その場合は、推薦入試といっても合格の保証はありません。倍率が1.2倍などと公表されている推薦入試は、この形式のものがほとんどです。なお出願基準は、その大半が内申点（正確には調査書点）となっています。

一般入試とは？

続いて、一般入試の第一志望優遇についてですが、対象・出願条件はさまざまです。最も一般的なのは、「第一志望基準を設定し、その基準をクリアして

いれば、入試得点に一定点を加算する」という形式です。この場合、一定点＝30点とすれば、仮に合格最低点が180点であれば、150点をとると合格です。より対象を広げ、第一志望でありさえすれば基準を設けずに優遇してくれる学校もありますし、推薦入試の不合格者のみ優遇という学校もあります。覚えておいていただきたいのは、推薦入試とは異なり学力試験の得点により合否が決定するということです。

また、一般入試には併願優遇が存在します。公立高校を第一志望とする場合に利用することが多く、私立高校によってはこの形式の入試を公立併願とも呼んでいます。公立高校が不合格ならば、併願優遇を与えてくれた私立高校に進学することを前提としており、他の私立高校を受験することは原則として認められません（例外も多くあります）。入学手続きの締切日も公立高校の合格発表後に設定されており、入学金等を過剰に支払う必要がありません。併願優遇のための基準は、推薦入試よりも高めの設定となっているのが一般的です。ただし、上位難関校や大学附属校ではこの形式の入試は実施していません。

そして、上位難関校や大学附属校が主に実施しているのが一般入試形式の1つであるオープン入試です。こちらは出願の基準などはありませんし、受験校数の制限もありません。合否判定は最も単純で、試験本番の得点による順位の

みで行われます。出される問題もハイレベルのものがほとんどです。

内申点がいかに重要かを認識しよう

一方、公立高校入試ですが、選抜方法をごく単純な公式として表現すると、次のようになります。

公立高校入試＝内申点＋当日点

内申点の計算方法は都県によって、さらに学校によっても異なっています。小数点以下の数値の扱いなども複雑で、すぐに値を出すことができません。ただし、内申点の素点は中学校の通知表の数値です。ここまでご紹介した5種類の入試

1. 私立高校推薦入試
2. 私立高校一般入試（第一志望優遇）
3. 私立高校一般入試（併願優遇）
4. 私立高校一般入試（オープン）
5. 公立高校入試

の中で内申点が関係しないのは、「4. 私立高校一般入試（オープン）」のみです。すでにさまざまな媒体で語られていますが、高校入試全般において内申点は非常に重要です。つまるところ、日々の学びが入試結果につながっているのが高校入試の最大の特徴といえるでしょう。



大学附属校の内部進学状況（2024年3月卒業生）

- おもな大学附属校・系属校・系列校の2024年3月卒業生が、内部推薦制度を利用して併設大学へ進学した人数をまとめています。
- 進学率＝進学者数÷卒業生数です。
- 「○」印の付いた学校は中学校の設置がない学校です。
- 「△」印の付いた高校は高校募集を行っていない学校です。
- 学校Webサイト等に掲載されている内部推薦(合格者数)と異なる場合があります。

青山学院大学	法	文	経済	教育人間	経営	国際政経	総合文化	理工	社会情報	地球社会	コミュニケーション	進学者計	卒業生	進学率
青山学院(東・共)	24	38	34	25	85	60	47	24	5	3	0	345	401	86.0%
青山学院系属浦和ルーテル学院(埼・共)	※青学推薦枠は一部(2030年までの経過措置中。現小6が卒業する年に希望者の多くが内部推薦で青学に入れるようになる予定)。													
青山学院横浜英和(神・共)△	17	30	5	6	18	13	13	11	6	7	12	138	238	58.0%

学習院大学		法	文	経済	理	国際社会	進学者計	卒業生	進学率	
学習院女子(東・女)	△	23	21	32	10	20	106	190	55.8%	※ 学習院女子大学進学者は除く
学習院(東・男)		31	16	44	8	23	122	199	61.3%	

神奈川大学	外国語	法	経済	経理	国際日本	人間科	情報	理	工	建築	化学生命	進学者計	卒業生	進学率
神奈川大学附属(神・共)△	2	0	2	3	2	1	0	1	1	0	0	12	206	5.8%

慶應義塾大学		経済	法	商	文	理工	医	総合政策	環境情報	薬	看護医療	進学者計	卒業生	進学率
慶應義塾女子(東・女)	○	60	54	16	12	24	5	14	17	0	5	207	212	97.6%
慶應義塾(神・男)	○	210	224	70	9	86	22	11	22	2	0	656	670	97.9%
慶應義塾湘南藤沢(神・共)		69	64	12	12	39	7	12	15	7	0	237	241	98.3%
慶應義塾志木(埼・男)	○	80	74	18	10	40	7	1	3	1	0	234	235	99.6%

國學院大學		法	文	経済	人間開発	観光まち づくり	神道文化	進学者計	卒業生	進学率
國學院(東・共)	○	18	28	26	10	6	0	88	565	15.6%
國學院大學久我山(東・共)		18	5	4	1	2	1	31	434	7.1%
國學院大學栃木(栃・共)		10	12	38	13	4	3	80	393	20.4%

国際基督教大学	アーツ・サイエンス	進学者計	卒業生	進学率	
国際基督教大学(東・共) ○	88	88	244	36.1%	※内部進学者のみ（一般入試からの進学は外数で29名）

駒澤大学		仏教	文	経済	法	経営	医療健康	GMS	進学者計	卒業生	進学率
駒澤大学(東・共)	○	1	77	92	38	70	7	41	326	518	62.9%

芝浦工業大学	工	システム工	デザイン工	建築	進学者計	卒業生	進学率
芝浦工業大学附属(東・共)	65	34	13	21	133	219	60.7%
芝浦工業大学柏(千・共)	14	4	5	5	28	279	10.0%

成蹊大学	法	文	経済	経営	理工	進学者計	卒業生	進学率
成蹊(東・共)	27	16	14	26	6	89	312	28.5%

成城大学	法	経済	社会イノベ	文芸	進学者計	卒業生	進学率
成城学園(東・共)	17	60	40	40	157	273	57.5%

専修大学		法	文	経済	商	経営	ネットワーク 情報	人間科学	国際コミュ	進学者計	卒業生	進学率
専修大学附属(東・共)	○	88	49	14	83	38	28	15	37	352	394	89.3%
専修大学松戸(千・共)		18	1	1	16	5	3	2	1	47	423	11.1%

大東文化大学	文	外国語	経済	経営	法	国際関係	スポーツ健康	社会	進学者計	卒業生	進学率
大東文化大学第一(東・共)○	10	3	4	26	7	1	8	3	62	276	22.5%

中央大学		法	文	経済	商	理工	総合政策	国際経営	国際情報	進学者計	卒業生	進学率
中央大学(東・共)	○	42	7	41	23	23	7	2	4	149	167	89.2%
中央大学杉並(東・共)	○	84	25	56	54	32	20	7	8	286	312	91.7%
中央大学附属(東・共)		104	27	59	64	35	22	7	10	328	381	86.1%
中央大学附属横浜(神・共)		71	20	37	51	19	8	5	5	216	308	70.1%

帝京大学	法	文	経済	医	薬	医療技術	理工	外国語	教育	進学者計	卒業生	進学率
帝京(東・共)	5	8	18	0	5	20	0	7	2	65	316	20.6%
帝京大学(東・共)	※内訳は未公表									9	175	5.1%
帝京八王子(東・共)	※未公表									0	88	0.0%

帝京平成大学	薬	人文社会	ヒューマン ケア	健康 メディカル	健康医療 スポーツ	進学者計	卒業生	進学率
帝京(東・共)	0	8	5	5	1	19	316	6.0%
帝京大学(東・共)	※内訳は未公表					2	175	1.1%
帝京八王子(東・共)	※未公表					0	88	0.0%

東海大学	文	文化社会	教養	児童教育	体育	健康	法	政治経済	経営	国際	観光	情報通信	理	情報理工	建築都市	工	医	海洋	人文	文理融合	農	国際文化	生物	HTIC	進学者計	卒業生	進学率
東海大学菅生(東・共)	10	19	9	4	5	4	24	13	7	6	4	4	3	9	3	13	2	7	0	0	1	1	0	0	148	394	37.6%
東海大学付属高輪台(東・共)	23	33	12	9	18	17	28	31	32	25	29	27	7	16	28	53	13	13	1	3	2	1	3	4	428	505	84.8%
東海大学付属相模(神・共)	22	30	10	11	36	21	17	28	11	9	14	8	8	23	19	52	20	6	1	1	2	4	0	2	355	464	76.5%
東海大学付属市原望洋(千・共)○	13	14	4	8	4	8	9	23	6	4	6	11	12	15	20	27	2	4	2	1	2	1	2	2	200	271	73.8%
東海大学付属浦安(千・共)	13	21	16	8	26	13	10	31	24	21	16	32	12	11	17	27	6	9	1	2	1	10	3	3	333	420	79.3%

東京電機大学	システムデザイン工	未来科学	工	理工	進学者計	卒業生	進学率
東京電機大学(東・共)	15	23	23	5	66	249	26.5%

東洋大学	文	経済	経営	法	社会	国際	国際観光	情報連携	福祉社会デザイン	健康スポーツ	理工	総合情報	生命	食環境	進学者計	卒業生	進学率
東洋大学京北(東・共)	13	5	14	6	15	3	10	0	2	1	2	2	1	2	76	255	29.8%
東洋大学附属牛久(茨・共)	29	26	41	25	30	5	20	1	9	10	1	14	1	3	215	524	41.0%

獨協大学		法	經濟	外国語	國際教養	獨協医大	進学者計	卒業生	進学率
獨協(東・男)	△	0	7	4	0	6	17	192	8.9%
獨協埼玉(埼・共)		4	30	28	1	6	69	324	21.3%

日本女子大学	文	理	家政	人間社会	国際文化	課題デザイン	進学者計	卒業生	進学率
日本女子大学附属(神・女)	30	17	96	70	33	33	279	373	74.8%

日本大学		法	文理	経済	商	芸術	国際関係	危機管理	スポーツ科学	理工	生産工	工	医	歯	松戸歯	生物資源	薬	進学者計	卒業生	進学率
日本大学櫻丘(東・共)	○	82	81	54	43	19	1	8	8	47	3	0	0	1	0	27	4	378	527	71.7%
日本大学第一(東・共)		33	17	33	11	4	4	11	5	54	14	2	0	2	1	26	3	220	333	66.1%
日本大学第二(東・共)		13	17	16	10	9	2	3	1	23	12	0	1	3	0	16	3	129	429	30.1%
日本大学第三(東・共)		7	25	16	11	6	8	4	2	20	4	0	0	0	0	49	2	154	355	43.4%
日本大学鶴ヶ丘(東・共)	○	36	49	54	36	16	2	3	1	45	6	0	0	0	0	38	7	293	453	64.7%
日本大学豊山(東・男)		87	42	52	24	12	1	6	8	103	25	0	0	1	2	35	6	404	549	73.6%
日本大学豊山女子(東・女)		21	27	32	18	15	2	6	0	13	4	0	0	0	0	24	8	170	318	53.5%
日本大学(神・共)		67	53	31	10	5	2	2	1	44	9	0	3	3	1	44	4	279	552	50.5%
日本大学藤沢(神・共)		39	58	22	45	15	2	2	6	39	2	1	0	1	0	82	3	317	690	45.9%
千葉日本大学第一(千・共)		13	20	24	6	5	0	4	4	46	20	2	0	1	3	12	12	172	332	51.8%
日本大学習志野(千・共)	○	10	13	5	4	1	1	0	1	47	5	0	0	0	0	0	5	92	369	24.9%
岩瀬日本大学(茨・共)	○	8	14	4	9	2	6	4	0	10	16	24	0	0	1	9	1	108	168	64.3%
土浦日本大学(茨・共)	○	28	33	37	28	11	11	9	2	58	20	2	1	0	2	18	9	269	598	45.0%
佐野日本大学(栃・共)	○	20	34	34	27	7	19	3	0	21	41	24	0	2	2	42	4	280	434	64.5%
日本大学明誠(梨・共)	○	25	42	33	25	3	4	6	1	29	15	0	0	0	0	61	0	244	350	69.7%

法政大学	法	文	経済	社会	経営	国際文化	人間環境	現代福祉	キャリアD	スポーツ健康	GIS	情報科	デザイン工	理工	生命科学	進学者計	卒業生	進学率	
法政大学(東・共)	27	24	26	28	29	9	12	6	11	5	4	6	9	7	5	208	238	87.4%	
法政大学国際(神・共)	○	33	24	35	31	32	12	14	4	13	4	4	6	10	9	5	236	311	75.9%
法政大学第二(神・共)		72	62	71	66	67	23	31	16	27	17	6	12	25	35	5	535	614	87.1%

明治学院大学	文	経済	社会	法	国際	心理	情報数理	進学者計	卒業生	進学率
明治学院(東・共) ○	14	39	23	16	15	14	0	121	299	40.5%
明治学院東村山(東・共)	16	40	24	26	6	16	4	132	252	52.4%

明治大学	法	商	政治経済	文	理工	農	経営	情報コミュ	国際日本	総合数理	進学者計	卒業生	進学率
明治大学付属中野(東・男)	41	58	60	25	34	17	38	20	10	15	318	397	80.1%
明治大学付属八王子(東・共)	45	47	48	20	28	16	38	23	8	11	284	313	90.7%
明治大学付属明治(東・共)	15	60	53	6	24	13	14	16	5	10	216	252	85.7%

※明治大学付属八王子は、2024年4月より校名変更（旧：明治大学付属中野八王子）

立教大学		文	経済	理	社会	法	観光	コミュ福祉	経営	現代心理	異文化	スポーツウェルネス	GLAP	進学者計	卒業生	進学率
香蘭女学校(東・女)	△	13	20	3	15	13	5	1	12	8	6	1	0	97	170	57.1%
立教女学院(東・女)	△	13	22	7	24	15	6	1	15	10	11	4	0	128	185	69.2%
立教池袋(東・男)		19	27	1	18	23	4	0	16	1	7	1	1	118	143	82.5%
立教新座(埼・男)		25	60	2	42	52	6	1	36	3	17	1	1	246	325	75.7%

早稲田大学	政治経済	法	文	商	社会科学	教育	国際教養	文化構想	基幹理工	創造理工	先進理工	人間科学	スポーツ科学	進学者計	卒業生	進学率	
早稲田(東・男)	△	20	13	9	15	15	20	1	11	15	14	9	6	0	148	305	48.5%
早稲田大学高等学院(東・男)		110	66	21	50	30	29	3	27	56	38	24	0	0	454	478	95.0%
早稲田実業(東・共)		65	33	20	55	50	41	11	25	30	22	18	1	2	373	384	97.1%
早稲田大学本庄高等学院(埼・共)○		73	44	16	35	20	28	13	22	26	26	18	1	1	323	326	99.1%

首都圏の高校入試 主な変更点

● 東京

変更時期	学校名	変更内容の概要	内容詳細
2024 年度より	東工大附属科学技術	校名変更	10 月より「東京科学大学附属科学技術高等学校」に校名変更
2025 年度より	東京女子学院	共学化・校名変更	「英明フロンティア高等学校」に校名変更し、共学化
	東京農業大学第一	募集停止	高校募集停止、完全中高一貫校へ
	武蔵野大学附属千代田	校名変更	「千代田高等学校」に校名変更
2026 年度より	順天	校名変更	2026 年 4 月より「北里大学附属順天高等学校」に校名変更
	東科大附属科学技術	キャンパス移転	田町から大岡山の新設キャンパスに移転
	日本学園	共学化・校名変更	「明治大学付属世田谷高等学校」に校名変更し、共学化

● 神奈川

変更時期	学校名	変更内容の概要	内容詳細
2025 年度より	県立二俣川看護福祉	科改編・校名変更	従来の看護科・福祉科の専門 2 科体制から、看護科が普通科に改編、福祉科継続 福祉科の定員も変更予定 「県立二俣川高等学校」に校名変更
	森村学園	募集再開	高等部募集を再開し、帰国生入試および定員 10 名程度の 一般入試（書類選考型）を実施
2026 年度より	鎌倉女子大学	共学化・校名変更	「鎌倉国際文理高等学校」に校名変更し、共学化
	県立麻生総合 県立田奈	再編・統合	校名未定、単位制総合学科のクリエイティブスクールに、校舎・敷地は田奈高校のものを 使用 両校とも 2025 年度入試まで募集を継続
	県立大井 県立小田原城北工業	再編・統合	校名未定、普通科クリエイティブスクールに、機械科・電気科・建設科・デザイン科を 設置 校舎・敷地は小田原城北工業のものを使用、2025 年度の大井高校 1・2 年生は、 2026 年 4 月から小田原城北工業高校の校舎で学習
2027 年度より	県立旭 県立横浜旭陵	再編・統合	校名未定、普通科高校に、校舎・敷地は旭高校のものを使用 横浜旭陵高校は 2025 年度入試より募集停止
	県立深沢 県立藤沢清流	再編・統合	校名未定、単位制普通科高校に、校舎・敷地は藤沢清流高校のものを使用 深沢高校は 2025 年度入試より募集停止
	県立永谷 県立横浜桜陽	再編・統合	校名未定、単位制普通科高校に、校舎・敷地は横浜桜陽高校のものを使用 永谷高校は 2025 年度入試より募集停止

● 千葉

変更時期	学校名	変更内容の概要	内容詳細
2025 年度より	市立稲毛	募集停止	2022 年度より段階的に高校募集のクラス数を削減、2025 年度募集停止 2027 年度より市立稲毛国際中等教育学校に完全移行予定

● 埼玉

変更時期	学校名	変更内容の概要	内容詳細
2026 年度より	県立岩槻 県立岩槻北陵	再編・統合	両校を統合し、現在の岩槻高校の場所に新校開校予定 募集人員は、全日制課程・普通科 280 人、国際教養科 40 人
	県立浦和工業 県立大宮工業	再編・統合	両校を統合し、現在の浦和工業高校の場所に新校「大宮科学技術高等学校」を開校予定 募集人員は、全日制課程・機械工学科 80 人、電気工学科 40 人、建築デザイン工学科 80 人、 ロボット工学科 40 人、情報サイエンス科 80 人
	県立越生 県立鳩山	再編・統合	両校を統合し、現在の越生高校の場所に新校「越生翔桜高等学校」を開校予定 募集人員は、全日制課程・普通科 120 人、美術表現科 40 人
	県立秩父 県立皆野	再編・統合	両校を統合し、現在の秩父高校の場所に新校開校予定 募集人員は、全日制課程・普通科 160 人、国際教養科 40 人
	県立八潮 県立八潮南	再編・統合	両校を統合し、現在の八潮南高校の場所に新校「八潮フロンティア高等学校」を開校予定 募集人員は、全日制課程・普通科 120 人、ビジネス探究科 120 人
	県立和光 県立和光国際	再編・統合	両校を統合し、現在の和光国際高校の場所に新校開校予定 募集人員は、全日制課程・普通科 240 人、国際科 80 人
2027 年度より	県内公立高校	入学者選抜方法	①受検者全員が自己評価資料を提出し、受験者全員に面接を実施 ②調査書の様式の変更 ③選抜の一部を特色化